

ちやんと見て

へ「あらすじ」  
写真「見たり捜査員」とは、指名手配犯の顔  
見つけ出す刑事の記憶し、雑踏の中から犯人を  
プの實力を持つ。しかし、10年前に妻・陽  
子を強盗殺人で亡くした事件をきっかけに、犯  
娘・真希も同じ能力を身につけてしまふ。顔  
人は「未だ捕まっておらず、手掛かりは似顔  
のみ。」犯人を捕まえたい。永井と真希は  
人とすれ違うたび、無意識に似顔絵と同じ目  
元を探してしまふ。  
ある日、陽子の事件の結核を控えた永井は、  
ぶっつけ怒りの余り、永井が毎日肌身離さず  
持つている写真帳（指名手配犯の写真が貼つ  
てある手帳）を壊してしまふ。  
に歩み寄ろうと新しい写真帳を買い、永井の  
帰り待ち犯人真希°し出し、永井は真希の結  
式までに犯人を見つけ出すと必死で、家に  
帰らない日々が続く。  
と真希°犯人を捕まえられず落胆していた永  
井は、事件のことは忘れよう、真希に告げる。  
真希は困惑したまま、母の事件以来、永井が  
挙式直前、真希は、母の事件以来、永井が  
欠かさず綴った日記の存在を知る。「犯人探  
しは自分が背負う代わり、真希には幸せにな  
ってほしい。」父の秘めた想いを知った真希  
は、自身の幸せな姿を見てもらおうと決意。  
永井は真希と一緒に笑顔でヴァージンロード  
を歩くことができた。  
いた。それも、三浦は真希の結核相手・丸岡  
にとつても、大切な存在だった。「永井と真  
希は逸る気持ちに必死でブレキをかける。

式の終盤、両親への手紙の場で、真希は永井と過ごしてきた日々を振り返る。永井も真希も真希も気が持ち込み上げる。自分を抑えられなく、真希は三浦へ復讐をしようとするが、永井はその真希を止め、自身で三浦の両手へ手錠をかける。

( 8 1 2 字 )

へ登場人物表へ

永井眞（59／49）見当たり捜査員（刑事）

永井真希（24／14）永井の娘  
美容整形外科の受付嬢

東海林梢（40）永井の部下

花沢正治（25）永井の部下

丸岡裕紀（27）真希の結婚相手 会社員

三浦久志（45／35）強盗殺人犯

佐久間重孝（60）永井の上司

永井陽子（37）真希の母 故人

丸岡由香子（40／50）丸岡の母

アナウンサー

ウエディングプランナー

店長

男 A

係員 A

司会

○東京・渋谷駅・スクランブル交差点（朝）

信号が青に変わると、大勢の人々が交差点を渡り始める。人ごみの中に佇む永井真希（24）の後ろ姿。ゆっくり振り返る真希。黒目がキョロキョロと動き、印象的な凛とした目元。何やら注意深げに周囲を見回している。真希が見ているのは通り過ぎていく通行人達の目元。ビルの大型テレビジョンで流れるニュース。アナウンサーの声「警察は未成年者誘拐の容疑で逮捕状を取り、容疑者の顔写真を初公開しました」

行き交う人々の中のサラリーマンの持つ新聞には「指名手配」の大きな見出しと犯人の顔写真。フードを深くかぶった少年がマスクをした怪しげな男に連れられ、真希の横を通り過ぎる。真希、咄嗟にその男の目を見る。クローズアップされる男の目元。真希、2人の後を追う。

○タイトル「ちゃんと見て」

○警視庁・外観  
晴れた空に警視庁のビル。

○同・捜査本部室・入口  
「指名手配犯捜査本部」の看板。

○同・捜査本部室・中  
部屋の隅につけっぱなしのテレビ。画面の中では指名手配犯の顔写真が大きく映し出され、アナウンサー達が深刻そうな顔で議論をしている。壁にかかった日めくりカレンダーは

永井 2006年新宿区連続通り魔事件・岩木紳助、  
 子 2006年新宿区連続通り魔事件・若林秀  
 、「強盗殺人事件」の見出しが書かれて  
 いる。さらにその横には、「非公開」と紙の  
 隅に書かれた、三浦久志（35）の似  
 顔絵が貼られている。一層鋭い目つきで  
 睨む永井。顔絵をより一層鋭い目つきで  
 テレビ画面に緊急速報のテロップが流  
 れ、アナウンスが興奮気味に原稿を流  
 読み上げる。今、入った情報です。先月か  
 ナウンサー「今、入った情報です。先月か  
 ら不明だった唐沢奏太くん12歳が東  
 京都内で発見された。誘拐した犯人は  
 都内在住、無職の31歳。誘拐した犯人は  
 画面には真希がスクランブル交差点で  
 す。違った少年の写真が映し出されて  
 いる。東海林梢（40）が転がるように部屋  
 に駆け込んで来る。

梢「行方不明の男の子、見つかりました！」  
 永井「慌てて前のペーじに戻り、平静を装いながら再び写真の確認をする永井。」  
 花沢「声、永井さん：永井さあーん！」  
 花沢「慌ただしく部屋に駆け込んできたのは少しオタク臭のする花沢正治（25）は息を切らして、花沢を冷ややかな目で見つめ、永井と梢。」  
 花沢「はあ、はあ：男の子：、はあ：、見つかりました：！」  
 梢「報告済み」  
 花沢「ええー：」  
 花沢「花沢の携帯に着信が入る。騒がしいアイドルソングの着信音。」  
 花沢「ガッカリした様子で携帯に出る花沢。」  
 永井「で、男の子の状態は？」  
 梢「外傷もなく、問題はなさそうですが、念のため病院で検査を受けています。詳しい話はその後になるかと。」  
 永井「はい、はい。良かった：：」  
 花沢「はい、はい。え！？そうなんすか？」  
 永井「？」  
 梢「（嫌な予感がする顔）：」  
 花沢「（永井さん！真希ちゃん、お手柄です！）永井さん！真希ちゃん、ピクリと動きが止まる永井。」  
 梢「：花沢、馬鹿っ！」  
 花沢「さっすが、ナンバーワン見当たり捜査員の娘っ：」  
 花沢「乱暴に花沢の口を手で覆う梢。」  
 花沢「むぐわ！」  
 永井「写真帳をパタンと閉じる永井。」  
 永井「真希が：：なんだって？」  
 梢「：」  
 梢「ジロリと梢と花沢を睨む永井。」  
 梢「：秘密にして：：言われてたのに」  
 梢「：ジロリと花沢を睨む梢。」





真希 「！」  
 永井 「他の見当たり捜査員でもない」  
 真希 「一般からの通報だそうだ」  
 永井 「犯人も男の子も目元しか見えなかった  
 っっていうのに：：俺のナンバーワン見当  
 たり捜査員って称号もそろそろ剥奪かもし  
 れないな」  
 真希 「：：」  
 永井 「まさか：：とは思うが、まだ、探して  
 るんじゃないだろうな」  
 真希 「：：」  
 永井 「一般の人のお前が警察の仕事に首を突っ  
 込むな」  
 真希 「：：私がいつ：：」  
 永井 「隠すだけ無駄だ。こんなことできるの  
 は、俺みだけいな見当たり捜査員と：：俺に  
 似ちまった、お前くらいだ」  
 真希 「：：」  
 永井 「やめろって言ったよな」  
 真希 「：：何を？」  
 永井 「犯人探し」  
 真希 「：：別に私は：：」  
 永井 「俺らに任せておけばいいって言ってる  
 やる。テーブル上の陽子の写真に目を  
 よな」  
 真希 「：：任せてる：：けど？」  
 永井 「警察の仕事に首を突っ込むな」  
 真希 「：：突っ込んでないけど？」  
 永井 「何度も言わせるな。わかったな」  
 真希 「俯く真希、ぎゅっと拳を握る。」  
 真希 「（小声で）そっちこそ：：」  
 真希 「（小声で）そっちこそ：：片手で空の缶を  
 潰す永井。」  
 真希 「：：でよ」

真希の拳が震える。  
 永井、缶をゴミ箱に捨て、部屋を出て  
 行こうとすると、そっちこそ。何度も言わせ  
 ないでよ！  
 永井「！」  
 真希「真希、立ち上がり、永井の前に立つ。  
 私だってやめたいよ。全部警察に任せ  
 て解放されたい。でも。でも。でも。」  
 永井「全然捕まえてくれないじゃん！」  
 真希「あの事件が起きてからずっと。ずっと  
 つとずーっと周りは腫れ物触るみたい  
 な目で見られて。私はもう人並みの幸せ  
 を手に入れられない。私。そう思ってた  
 た。でも。」  
 真希、テールの上を広げられた丸岡  
 真希「受け入れてくれる人が現れた。よう  
 やく私も普通の女の子になれるのかな。う  
 待。これから見える世界が変わるのかな。う  
 待。陽子の写真に視線を移す真希。」  
 永井「何も変わらなかった。」  
 真希「何で捕まらないの？」  
 永井「ねえ、なんで？」  
 真希「お父さんが早く捕まえてくれてたら私  
 だ。真希、ソファに置かれた永井の靴から  
 写真帳を取り出し、一番最後のページ  
 を開く。」  
 真希「忘れてくても、こいつが目に焼き付い  
 の。どっかにはいて。楽しい時も、頭の片隅  
 開かれたページには三浦の似顔絵。」

真希「探したくないのに、見ちゃうの、つい  
 永井「：すれ違うたび、人の目ばつか：：」  
 真希「ぶ指名手配写真を永井に見せる。何枚も並  
 ん見つけてきた。すごいと思うよ？またお  
 父さん捕まえたんだ！って：：」  
 永井「：：」  
 真希「でもね、そのたびに私期待しちゃうの。  
 ああ、今度こそ：：今度こそ見つかったの  
 かなって」  
 永井「：：真希」  
 真希「でも、いつつも違う。ねえなんで？な  
 んであいつじゃないの？」  
 永井「真希：：」  
 真希「私にとってどうだっていいの、こんな  
 人たちが：：私はいっさえ捕まえてくれた  
 らもう：：」  
 永井「（大声で）真希！」  
 真希「：：！」  
 真希の震える手を強く握る永井。  
 永井「どうでもいいやつなんて、ここには一  
 人もいないぞ」  
 真希「：：」  
 永井、真剣な眼差しで真希を見つめる。  
 目をそらす真希。  
 真希「（ぼそりと）：：普通になりたい」  
 永井「：：え？」  
 真希「私は普通になりたいの！」  
 真希「私に叩きつける。写真帳を  
 床に叩きつける。犯人捕まえるしかないじゃ  
 ない！お父さんが捕まえられないなら私が  
 ：：！」  
 玄関のドアが開く音。  
 稍の声「こんにちはお邪魔します」  
 いですよーお邪魔します」

梢「娘と一緒に入れる時間も、後少しなんで」  
 8 E D I N G P A R T Y 2 0 1 W  
 見る梢。テ―ブルの上―に放置されたアルバムを  
 梢「もう喧嘩なんてしてる時期じゃないんじ  
 やないですか？」  
 梢「忘れてましたよ、大事なものに取る。ペ―ジをパラパラと捲り、ボールペンを握る。夢中で何か手帳に書き殴っている永井」  
 梢「忘れたよ、大事なもの」  
 永井「その手帳は、永井の写真帳と同じくらい取り出し、永井に手渡す。鞆から手帳をため息をつく梢、自分の鞆から手帳を」  
 永井「梢、ちらりと陽子の写真に視線をやる。」  
 梢「お父さんに黙っててっっていうのも、真希ちゃんにさです。真希ちゃんだってわかないじゃないですか。むしろ、一人男の子の命助けたんですよ？」  
 梢「やっぱ、ですか」  
 梢「（ため息）心配だから来てみたら：：」  
 梢「あ、真希ちゃん：：」  
 梢「え―：：と」  
 大きな足音とともに現れる梢。  
 永井と真希の険悪ム―ドに鉢合わせ、  
 真希、梢を無視し、部屋を出て行く。  
 真希が2階へ上り、自分の部屋のドアを閉める音がする。

無心で手帳に書き込み続ける永井。

○同・真希の寢室（夜）

ベッドに横たわり、陽子の写真を見つめて  
いる真希。

○（回想）永井家・玄関・外（夜）

開けっ放しのドア。  
土砂降りの雨。  
ずぶ濡れの状態でセーラー服姿の真希  
（14）と永井（49）が立っている。  
2人の視線の先には大量の血の中に仰  
向けで横たわっている陽子。  
呆然としてしている真希。

○元の永井家・真希の寢室（夜）

陽子の写真を胸に押し当て、瞳を閉じ  
る真希。

○同・リビング（朝）

窓から朝日が差し込んでいる。  
出かける準備をしている永井。  
床に落ちていいる写真帳に気づき、鞆に  
入れようと持ち上げる。  
ページがバラバラになり、床に散らば  
る。

永井「（ため息）思いつき叩きつけやがっ  
て……」  
散らばったページをかき集める永井。

○警視庁・外観（朝）

花沢の声「晴れた空に警視庁のビル。  
えーとえーと……」

○同・捜査本部室・入口（朝）

花沢の声「指名手配犯捜査本部」の看板の  
：都筑一臣！

梢の声「正解。じゃあこれは？」

○同・捜査本部室・中（朝）

大勢の刑事が各々のデスクで指名手配  
犯の写真を眺めたり、ルーペでその細  
部を確認したりしている。犯人の目  
ホワイトボードに貼られた、顔  
元の部分だけプリントアウトされた顔  
写真。それを前に考え込んでいる花沢。  
その横でストップウオッチを手に、ニ  
ヤニヤした顔で立っている梢。  
梢「チツチツチツチツチツチツチ」  
梢「だんだん焦り顔になる花沢。」  
梢「：：：あと10秒！」  
花沢「首を横に振る梢。」  
花沢「じゃあ：：：か、梶川：：：？」  
梢「バーンッ！はい時間切れ！」  
写真を裏返すと、全体の顔が映った写  
真になる。爆破事件被疑者の篠山でした」  
梢「中央区連続爆破事件被疑者の篠山でした」  
花沢「くっ：：：」  
梢「じゃあこれ：：：」  
花沢「（食い気味に）アイドル『女子更衣  
室』6番ロッカ―の西島神奈ちゃん！」  
梢「（キレた様子で）なんでこれは即答なん  
だよ！」  
梢「げんこつを食らう花沢。」  
花沢「うっ：：：！」  
梢「写真を裏返すと、アイドルスマイ  
ルをした女の子の写真。」  
花沢「（頭を深々と下げ、）す：：：すみませ  
ん：：：っい：：：！」  
梢「下向いてる暇ないよ！」  
梢「バツと顔を上げる花沢。」  
梢「数はある写真のパラパラと見る梢。」  
梢「次は：：：一枚に目が釘付けになる梢。」  
梢「これにしようか」

花沢「えーっ！と？これは……これは……これ  
 は……え……？」  
 花沢「東海林さん……これ……」  
 花沢「花沢を見つめる梢。」  
 永井「永井がやってくる。問題……」  
 永井「朝から楽しそうだな」  
 花沢「急いで似顔絵カードを隠す梢。」  
 梢「おはようございます、永井さん！」  
 永井「おはよう！」  
 花沢「朝練っす！」  
 永井「靴から写真帳を取り出すが、ペ  
 ージがバラバラになってしまっていることを忘  
 れ、床などに落とす。永井「ほお。熱心だな」  
 永井「ほお。熱心だな」  
 永井「面倒くさそうにページをかき集  
 める。」  
 花沢「先週初めて味わったワッパかける快感、  
 花沢「もっかい経験したいなっつて」  
 永井「（鼻で笑い、）じゃあ、百発百中で当  
 てないとな」  
 花沢「え」  
 梢「……」  
 永井「連続爆破の篠山は基礎中の基礎だ」  
 永井「かき集めたページに輪ゴムをかける永  
 井。」  
 花沢「永井さん、いつから見て……？」  
 梢「……」  
 永井「（フツと笑い、）10分後に出発する  
 花沢「から。しよんべんしっかり済ませとけよ」  
 梢「……」  
 梢と花沢、出て行く永井を笑顔で見送  
 ると真面目な表情に変わる。顔絵カードを出す梢。  
 隠していた似顔絵カードを出す梢。





永井の肩を拳で軽く殴る佐久間、やらしい笑みを浮かべ、去って行く。深々とお辞儀をし、佐久間の後ろ姿を見送る永井。顔を上げ、深呼吸し、再び捜査室へ踏み入れる。永井「東海林、花沢……」

○同・捜査本部室・中（朝）  
振り返る梢と花沢。

○繁華街（朝）  
雑踏の中へ踏み入れる永井、梢、花沢の後ろ姿。

永井「今日も見逃すな」  
梢・花沢「はい！」

○結婚式場・外観  
丸岡の声「すみません。急な人数変更」

○同・打ち合わせ室  
真希と丸岡は横並び。  
「テーブルを挟んでウエディングプランナー（以下、プランナー）と向かい合っている。い、座っている。ボートと空を見つめている真希。プランナー「大丈夫ですよ」  
丸岡「ありがとうございます」  
丸岡「席はここをお願いしますか？」  
プランナー「……」  
丸岡「……失礼いたしました。親族の命の恩人なんです」

進行表には式の終盤に「花嫁の手紙」と書かれている。

プランナー「はあ……」  
進行表を手に取り、はあとため息をつく真希。

○マンション・外観（夕）

丸岡の声「喧嘩でもしたの？」

○同・丸岡の部屋・玄関・中（夕）

靴を脱いでいる真希と丸岡。

真希「え？」

丸岡「お父さんとまた揉めたのかなーって」

真希「なんで？」

丸岡「顔」

姿見に映る自分の顔を見つめる真希。ブスツとした表情をしている。

真希「あ……ま……」

○同・丸岡の部屋・寝室（夕）

必要最低限のものだけ置いてあるシンブルな部屋。

ベツドのそばに高校生くらいの丸岡と丸岡由香子（40）が映った写真が飾

られていた。写真の中の由香子は丸岡の父の遺影を

大事そうに抱えているが、フラッシュ

が反射しており、顔は見にくい。

腰を下ろす真希と丸岡。

真希「……」

丸岡「……」

真希「……」

丸岡「……」

真希「……」

丸岡「……」

真希「……」

丸岡「……」

真希「……」

丸岡「……」

真希「……」

手持ち無沙汰でテレビのリモコンに手を伸ばす真希。



真希「……」  
丸岡「真希のお父さんって」

○パチンコ店・中（夕）

永井の鋭い目つき。  
パチンコ台に向かう客たちの目元を睨みつけている。  
永井の元へ駆け寄る梢と花沢。  
永井、奥に座る客の肩を叩き、警察手帳を見せる。  
客は永井の鋭い視線に動けない。  
丸岡の声「いつもすごい怖い目してるけど」

○永井家・食卓（夜）

丸岡の声「真希を見るときの目はすごく優しいと思うよ」

向かい合って味噌汁を啜る真希と永井。  
永井の目をじっと見る真希。

永井「何だ」

真希「……別に」  
首を傾げながら味噌汁を啜る真希。  
テーブルの上には笑顔の陽子の写真。

○同・脱衣所（夜）

洗濯機に洗濯物を入れている真希。  
永井は風呂でシャワーを浴びている。  
永井のズボンのポケットを確認し、

真希「あれ？」

永井に向かっ、  
真希「ねえ、ハンカチは？」  
真希の声が届かず、シャワーを浴び続

けている永井。  
真希「……ため息をつく。」

○同・リビング（夜）

永井の鞆からくしゃくしゃになったハ  
ンカチを取り出す真希。  
輪ゴムでページをくくった写真帳が入  
っていることに気づく。

真希「……」

○古びた回転寿司屋・外観

店前に出ている黒板に「4月3日  
日のおすめ・カツパ巻き！」と書か  
れている。

○同・中

店内には永井、梢と、花沢の3人だけ。  
梢の前には金やら赤やらの高そうな色

花沢「へもぐもぐしながらあーもう！駄目。  
一方、花沢はカツパ巻きばかり頬張る。

梢「こっちは向かないでキュウリ飛んできた！」  
花沢「午後も全然、運が向いてくる気がしま

梢「せん！」  
梢「まだ始まって3時間でしょ。そんな短時

間で遭遇できてたら誰も苦労しないっの  
永井は緑茶を啜り、貧乏ゆすりをして  
いる。

○同・入口・外

店長の声「まいどー」  
花沢が何かに気づく。

花沢「あれ？あれって……」  
永井・梢「！」

ワナワナと震える人差し指で何かを指  
さす花沢。

永井と梢も花沢の指先に目をやる。  
帽子とマスクをしたモデル体型の若い

花沢「女性が歩いてる。女子更衣室」3番ロッ  
カ「の清泉梓ちゃん！あの瞳、間違いない

梢「見当たりにゲンコツを食らわせる梢。  
えこのクソガキがあ！無駄遣いしてんじゃね

ドタダと喧嘩している梢と花沢。

花沢「あ：：真希ちゃん！表情の永井。」

梢「もつとマシな嘘言えん！」

花沢「嘘じゃなくって：：ほら！」

花沢「指差す方向を見て驚く永井。」

首から社員証をぶら下げた、受付の制服姿の真希が歩いている。

永井「：：？」

花沢「何でこんなところに：：？」

真希は3人には気づいていない様子で、漫画喫茶に入った古いビルへと入って、

梢・花沢「：：？」

険しい顔つきの永井、真希の後を追う。

○古びた漫画喫茶・中

異様な雰囲気漂っている店内。

怖々と通路を進む真希。

誰かの咳払いにビビりながら、狭い

通路をすれ違う人の目元を必死に見る。

一人の人の相の悪い男が真希に舌打ちを

し、近寄ってくる。男が真希に舌打ちを

恐怖のあまり、身動きできない真希。

突然真希の腕を掴む手。

真希「！」

振り返ると、永井である。

外に連れ出される真希。

○繁華街

真希「強引に真希の手を引いて歩く永井。」

真希「痛い：：痛いってば！」

永井「永井の手を振りほどく真希。」

永井「仕事で真希に振り返る。」

真希「：：昼休みなんだから別にどこにいた」

永井「：：いいでしよ」

永井「あんな物騒なところに結婚を控えた女

真希「：：コノコと：：？」

真希「もうさいな：：？」

永井「もうさいな：：？」

真希「：：？」

永井「：：？」

真希「（大声で）うるさいんだってば！」  
永井「うるさくない……」  
永井「再び真希の手首を力強く握り、歩き出す。」

○インターネットカフェ・前

花沢「庇の下で空を見上げている梢と花沢。」

梢「……永井さんと真希ちゃん大丈夫ですかね」  
放つ「……さあね。親子の問題だし……ここは」

花沢「……永井さん」

梢「……私達は罪から逃れてる奴らを一人でも多く捕まえなきゃ」

花沢「……心配する気持ちもわかるけど……」

梢「……心配する気持ちもわかるけど……」

梢「……心配する気持ちもわかるけど……」

花沢「……え、こわこわこわ」

花沢「……え、こわこわこわ」

花沢「……え、こわこわこわ」

花沢「……え、こわこわこわ」

○シャイン美容外科・外觀

洒落た建物に「シャイン美容外科」の看板。一人、若い女性が入っていく。

○同・受付

若い女性からにこやかに診察券を受け取る。希。その横に棒立ちの花沢。

花沢「ひつ：：」  
恐る恐るちろりと真希を見ると、真希

花沢「へ小声で」ほんどそっくりだな：：！」  
真希から目をそらす花沢。

○繁華街

鋭い永井の目元。  
人々の目元を見ながら歩く永井と梢。

梢「花沢に務まりますかね：：？」  
永井「大丈夫だろ。獣じゃねえんだから」

永井「うーん。ある意味獣以上な気が：：」  
永井、人々の目元を確認するのに集中する。

○シャイン美容外科・受付

受付の前の待合ソファには誰もおらず、  
受付に座る真希ともう一人の受付嬢、  
花沢の3人のみ。

花沢「お願いだから行かないで：：！僕お父  
さんにお願いだからやうよ：：」

真希「：：仕事なんですけど」  
ため息をつき、カルテをもう一人の受

付嬢に渡すと、どかっとう椅子に座り直  
す真希。

ふう、と一安心する花沢。  
受付には真希と花沢の二人だけになる。

花沢「：：」  
不機嫌そうな表情の真希を見つめ、

花沢「真希ちゃん：：」  
真希「：：なんですか」

花沢「真希ちゃん、お父さんのことどう思っ  
てる？」

真希「どう：：って。何ですか急に」  
花沢「いや、さ：：僕がこんなこと言うのも

どうかとは思わんだよ：：」  
いつも必死なんだよ：：」  
永井さん本当



真希「……」

○ 駅トイレ・前

梢がトイレから出てくるのを待っている。永井。ポケットから三浦の似顔絵を取り出し、花沢の声を毎日毎日穴が開くんじやないかっ

てくらしい犯人の顔見つめて」

○ 雑踏の中

花沢の声「かかなくなりんじやないかってくらしい探し回って」

○ シャイン美容外科・受付

花沢「この人はなんでこんな頑張っている真希。ろうって初めは不思議だったけど」

花沢「全部真希ちゃんの為なんだなあって。」

真希「……」

花沢「真希、膝に置いた手をぎゅっと握る。話だよね。」

真希「……」

花沢「真希、すっと立ち上がる。だから……！お願いだから僕の視界か

ら「消えないで！」

真希「患者さんのカルテ取りに行くだけだから花沢が渋々了承すると、受付から姿を消す真希。」

○ 歩道橋（夜）

ざんざん降りの中、永井が傘もさ  
さず、走っている。滑って転びそうになる永井。

花沢の声「電話口で泣き出しそうな声で」  
永井さん：すみません：真希ちゃんか  
：真希ちゃんか  
：ほんのちよつと目離  
した隙にいななくなっちゃってえええ：：「

○永井家・玄関（夜）

びしよびしよに濡れた状態の永井。  
しかし、家の中の電気は点いておらず、  
真っ暗。

○同・リビング（夜）

電氣をつけるが誰もいない。  
テーブルの上の陽子の写真を見つめる  
永井。  
永井、ケータイの電話帳から真希を選  
択し、電話をかける。

○丸岡のマンション・外観（夜）

○同・丸岡の部屋・寝室（夜）

時計が2時を指している。  
机に座り、便箋に向かっている真希。  
便箋の書き出しは「お父さんへ」。  
なかなか次の文字が出てこず、イライ  
ラした様子の真希。  
真希のスマホのバイブが鳴る。  
画面を見ると、「お父さん」からの着  
信。

真希「：：」  
丸岡「：：」

丸岡「まだ頑張ってるの？」  
真希「丸岡がベッドから真希を見ている。  
：：ごめん。薬飲み忘れちゃった？」  
丸岡「大丈夫。薬飲み忘れちゃったなど思  
って」

丸岡「ちよつと飲んでくる」  
丸岡「自分のスマホを手に取り、  
丸岡、部屋から出て行く。」

○永井家・リビング（夜）

ケ―タイの電話発信を止める永井。  
しばし立ち尽くすが、突然髪をかきむ

しり、大声を上げる。  
すると、永井のケ―タイが鳴る。

永井「もしもし：：！」  
すかさず電話に出る永井。

○丸岡のマンション・寝室（夜）

部屋に戻ってきた丸岡、枕元にスマホ  
を置く。

真希の前にある便箋を見て、

丸岡「書けないの？」  
丸岡「こくと頷く真希。」

真希「伝えなきゃいけないことはたくさんあ  
るの：：うまく言葉にならない：：」

丸岡「真希の手に自分の手を添える丸岡。」  
丸岡「うまくなくていいんだよ」

丸岡「真希自身から全部伝わってくるから」  
丸岡「真希、小さく頷く。」

丸岡「たった1日の結婚式でカッコつけるよ  
りも、今お父さんと過ごせる時間を大切に

真希「：：」  
真希「：：」

丸岡「明日は帰んなよ？」  
丸岡「真希、小さく頷く。」

丸岡「さて！俺もちよつと式の準備するかな  
あ―」

真希「え？今から？」  
丸岡「プロフェイル動画にちよつと追加しと

真希「うん。裕紀も頑張つて」  
真希「ベツドの脇にある、丸岡と由香子の写

真希「うん。裕紀も頑張つて」  
真希「ベツドの脇にある、丸岡と由香子の写

真希「うん。裕紀も頑張つて」  
真希「ベツドの脇にある、丸岡と由香子の写

○警視庁・外観（朝）  
花沢の声「すみませんでした：：！」

○同・捜査本部室・中

壁にかかった日めくりカレンダーは

4月4日。土下座をしている花沢。

花沢「犯人を見つけたのは愚か……お嬢

さん一人見張ることすらできず……」

永井「もういい。婚約者のところにいるって

花沢「でも……」

花沢「息を切らした梢が入ってくる。！」

梢「永井さん……もうなんだ……！」

永井「聞こえてる！！もうなんだ……！」

梢「……」

○交差点

大勢の人が行き交う中に飛び込んでい

梢「目撃情報……ずっと、探してた……」

交差点中央で立ち止まる永井。

永井の両脇を歩いていく通行人達。

梢「新幹線ホームを張った第3班が似

た目元を見た……」

報「周りをぐるぐると見回す永井。……」

梢「クローズアップされる通行人達の目元。

なかつた……今までのこんな情報すら出たこ

ら今度こそ近くにいたのか……」

○文房具店・外観（夕）

○文房具店・中（夕）

棚の前で何か悩んでいる真希。

その後ろを女子中学生とその母親らしき2人が楽しそうに会話しながら歩いていく。その2人を優しく眺める真希。

○（回想）同じ文房具店・中

棚の前に並び、何やら二人で悩んでいる。

真希「こっちの方が渋くてお父さんぽい」  
陽子「そうね。じゃあ、こっちにしようか」

その手には紺色の手帳が握られている。

○（回想終わり）元の文房具店・中（夕）

口元が緩む真希。  
棚に並ぶ1冊の手帳にそっと手を伸ばす。

○永井家・外観（夜）

○同・リビング（夜）

時計が9時半を指している。  
白紙の便箋の前で考えている真希。  
その横に置いてある文房具店の袋。  
袋の中を覗き、

真希「：：」  
袋から何か取り出す真希。

新しい手帳である。  
表紙は緑色。  
便箋を仕舞い、手帳の表紙を開く。  
少し考えると、ペンで一文字一文字力強く書き始める。

× × ×  
手帳を閉じる真希。

表紙にしぼし手を添え、目を瞑る。  
テ丨ブル上には微笑んだ陽子の写真。  
真希、目を開け、ふと時計を見ると、

真希「：：」  
1時過ぎであることに気づく。

スマホを見て何も新着はない。

不安げな顔になる真希。

すると、突如着信音が鳴る。

ビクツとする真希。

真希「へ、恐る恐る」

永井「へ、恐る恐る」

真希「へ、ホッとため息をつき」もう……遅い

よ！こんな時間まで連絡なしで……心配す

るでしょ！

永井「……お前が言えた義理か？」

真希「……」

○警視庁・捜査本部室・中（夜）

窓際にいる永井、ガラケーで電話をし

ている。

永井「……少しの間泊まり込みになる」

○永井家・リビング（夜）

真希「少しの間……結婚式は明々後日だ

よ？わかっている？」

永井「……わかっている」

真希「……わかっている」

○警視庁・捜査本部室・中（夜）

ガラケーを握る永井、黙っている。

○永井家・リビング（夜）

真希「……もしかして……見つかったの？」

○警視庁・捜査本部室・中（夜）

永井「……開いた窓から空を見上げる永井。

○永井家・リビング（夜）

真希「……電話をしている真希。

永井「……そこは謝らないでよ」

真希「……そこか」

永井「……そこは謝らないでよ」

真希「……そこか」

永井「……そこは謝らないでよ」

真希「……そこか」

真希「……そこは謝らないでよ」

永井の声「大丈夫だから」  
真希「え？」

○警視庁・捜査本部室・中（夜）

永井「結婚式までには、絶対大丈夫だから」

○永井家・リビング（夜）

真希「スマホを握る真希。」

永井「絶対……」  
真希「スマホを強く握る真希。」

真希「戸締りだけはしっかりしろよ」

永井「うん」  
真希「じゃあ」

電話を切る真希。

○警視庁・捜査本部室・中（夜）

梢「なんでですか？」

振りと梢の姿。

永井「梢を無視し、自分のデスクに向かい、紺色の表紙の手帳に何か書きなぐり始める。」

梢「なんの……」

梢「無言でペンを走らせている永井。」

永井「本当のこと……」

梢「……」

永井「……」

梢「……」

梢「……」

4日「……」

○永井家・外観（朝）

○同・リビング（朝）

会社の写真へ話しかける真希。テーブル上の陽子「大丈夫って言ってるんだから、大丈夫……だよね」

○同・玄関（朝）

戸締りをし、空を見上げる真希。

○雑踏の中

人混みの中を鋭い目つきで歩いている永井。磨り減った永井の靴底。すれちがった人の目元を見て、ハッと走り出すが、見失ってしまふ。三浦の似顔絵をポケットから取り出し、睨みつけるが、手に力が入りすぎ、似顔絵がぐしゃぐしゃになる。

○繁華街（夕）

三浦の似顔絵を見つめ、雑踏の中に踏み出す梢と花沢。

○カプセルホテル・入口（夜）

壁にもたれかかり、ホテルへ入っていく人々をじつと見つめる永井。

○警視庁・外観（朝）

曇り空。花沢の声「とうとう明日ですかー」

○同・捜査本部室・中（朝）

椅子の背もたれに背を預け、仰け反つている花沢、日めくりカレンダーを見つめる。日付は「4月6日」。デスクで永井のバラバラになった写真帳のページを黙々と新しい写真帳へ貼







花沢「：：睨み合う永井と梢。

永井「：：出かける」

と動揺を抑えきれないままの花沢とキツと前を見つめる梢。

○ 繁華街

今にも雨が降り出しそうな空。  
通行人達が怯えた様子で道を空ける。  
その空いた道を歩くのは永井。  
行き交う人々の目元をぎよろぎよろと  
M「した血走った目で確認する。  
行き交う人々の目元、目元、目元。

○ パチンコ屋・中

通路を歩き、鬼のような形相で台に向  
かう人々の顔を睨みつける永井。  
M「どこだ：：どこにいたよ」  
四方八方を探しまわる永井の目元。

○ 交差点

どんよりとした空。  
黒い雲が覆っている。  
信号が青に変わり、前方から大勢の人  
が歩いてくる。  
前方を睨み、人混みに向かって歩き出  
す永井。

永井のM「：：さっさと出て来いよ！」

交差点の真ん中辺りまで歩いたところ  
に、人混みの中から三浦に顔が似た男  
Aが前から歩いてくる。  
Aが止まり、目を見開く永井。  
足が止まり、目を開く永井。  
永井「：：あいつか？」

立ち止まっている永井の両脇を人が通  
り過ぎて行く。  
邪魔そうに永井を睨む人々。  
急いで三浦の似顔絵を確認する永井。  
永井と距離が縮まる男A。

永井「あいっだ……」  
 梢の声「今日の永井さん、冷静な判断が  
 できないと思います」  
 永井「冷静な判断ができない？笑わせん  
 じやねーよ……」  
 梢「必要以上の焦りは、無実の人を犯人  
 に仕立て上げてしま……」  
 永井「死ぬほど会って思ってるから見  
 つかるじゃねえか……」  
 永井の横を通り過ぎる男A。  
 男Aの姿を目で追い、振り返る永井。  
 男Aの後をつける永井。  
 永井「俺の目が絶対だってこと、教えてやる  
 よ」  
 不気味に笑う永井、男Aの肩を叩こう  
 とする。  
 ゴロゴロと鳴る雷の音。  
 男Aの肩に永井の手が触れる寸前で男  
 Aが振り返る。  
 クロ―ズアップされるその目元。  
 ピクリと手が止まる永井。  
 永井の顔からみるみる笑みが消えてい  
 く。  
 永井のM「違う」  
 鳴り響く着信音と雷の落ちる音。  
 ○ 渋谷駅・俯瞰（夕）  
 丸岡の雨が降っている。  
 丸岡の声「今日は帰ってくるというね」  
 ○ 同・カフェ（夕）  
 テーブルを挟んで向かい合って座る真  
 希と丸岡。  
 真希「まあ、仕事のことになるとお父さ  
 ん夢中だから。あんまり期待してない」  
 丸岡「帰ってきてくれるよ、絶対」  
 真希「……」

丸岡「もしもスマホが鳴る。」

丸岡「うん：：うん：：え：：うん：：じゃあ

も今渋谷：：うん：：わかった：：じゃあ

ツタヤの前で：：うん：：わかった：：じゃあ

丸岡「やばい、震える手で電話を切る。」

真希「誰から？」

丸岡「おじさん？」

丸岡「興奮気味の丸岡を見て微笑む真希。」

丸岡「これから会えることになったんだ：：

丸岡「そうだ！真希も行かない？紹介したいん

真希「あ：：うん：：そう：：だね」

丸岡「：：あ：：：：ごめん。今日はお父さんと

丸岡「裕紀も」

丸岡「じゃあ、明日ね」

○同・スクランブル交差点（夕）

○同・スクランブル交差点（夕）

大勢の人が歩き出す。

真希も駅に向かっ歩き出す。

立ち止まり、下を向く真希。

永井の「絶対大丈夫だから」

真希の顔を上げ、歩き出す。

人々とすれ違おうが、目元ではなく、視



梢「この佐久間は、収束しやめてください！　！　幸い、  
 佐久間「そういう問題じゃねんだよ！」  
 梢「！　！」  
 佐久間「いいか：　お前らがやったことはそ  
 んな生温いことじゃねーんだよ！」  
 佐久間「佐久間、永井の胸ぐらを揺すり、  
 ねっけどよおさん殺された恨みかなんか知ら  
 ねっけどよおさん殺された恨みかなんか知ら  
 ほっけどよおさん殺された恨みかなんか知ら  
 てんじやねーぞ：　：　一人です」  
 永井「東海林、花沢、お前もよく肝に銘  
 じとけ。俺らがやってる仕事って言うのは  
 なぁ：　、俺らがやってる仕事って言うのは  
 犯人割り出すついで、写真、似顔絵から  
 げー危なっかしい仕事でもあるんだよ！」  
 永井「下したら無実の人間に罪を着せち  
 まうこともあるんだ：　：　」  
 佐久間「身を縮める花沢：　：　」  
 佐久間「お前はそこをしっかりと分かってるん  
 じゃねーのかよ：　：　なあ：　：　」  
 永井「永井を激しく揺する佐久間。」  
 佐久間「俯く永井。」  
 佐久間「お前は本物だと思ってたんだけどな  
 乱暴に永井を突き飛ばし、脱力した様  
 子で出て行く佐久間。」  
 倒れた状態のまま黙っている永井。  
 永井を抱き起こそうとする梢。  
 梢「永井さん、今日はもう帰ってください。  
 真希ちゃん、家で待ってま：　：　」  
 梢の援助をやらわり断り、ゆっくり立  
 ち上がる永井、頬を痛そうに歪ませ  
 る。唇からは血がにじんでいる。  
 足を引きずりながら自分のデスクに向  
 かう永井。」

梢「……」紺色の手帳に何か書きこみ始める。

泣きじゃくっている花沢。  
手帳を棚にしまうと、部屋を出て行こ

うとする永井。  
花沢、立ち上がり、

花沢「永井さん！本当にすみませんでした……！」

永井「花沢……ありがとう……」

花沢「……」

永井「梢に振り返る永井。」

梢「……」

梢「……」

花沢「……」

梢「……」

梢「……」

梢「……」

○永井家・外観（夜）  
土砂降りの雨。

○同・リビング（夜）  
真希、テーブルの上に陽子の写真を見

つめている。  
玄関でドアが開く音。

○同・玄関（夜）  
ずぶ濡れの永井が座り込んでいる。

真希「……」

真希「……」

真希「……」

真希「……」



真希「新しい顔色は写真帳の存在を見て、その配犯の写真もびっくり貼られた指名帳を取り出し、ペー지를捲りだす。写真永井の鞆から梢にもらった新しい写真ソファにどかつと座る永井。○同・リビング（夜）」

真希「ちよっと……」

傷明日結「結婚式なの知ってるよね……？ 綺麗な顔に触れようとする真希。」

真希「何これ……え、ちよつと待ってよ……」

真希「永井の頬には大きな青あざ。」

真希「無理矢理永井の顔を覗き込み、息を飲む真希から顔を覗こうとする真希。」

真希「ちよつと……」

真希「誰かさんが壊してくれたおかげで……」

真希「前の、お母さんと選んでプレゼンしたんだっけな」

永井「そうだよ」

真希「一番最後のペー지를開くと、三浦の似顔絵や陽子が殺害された当時の記事等が貼られてペーヂを見つめる永井。」





○結婚式場・外観  
小雨が降っている。

○同・披露宴会場・外  
まだ客は集まっておらず、静か。  
ウエルカムボードが置かれている。  
そこには「2018・4・7」の日  
付。

○同・控え室・中  
窓についている雨粒。  
鏡の前に座るウエディングドレス姿の  
真希。

浮かない表情をしている。  
手には陽子の写真。  
ドアをノックする音。

真希「……はい」  
ドアが開き、係員Aに連れられた永井

が入ってくる。  
頬には絆創膏。  
ゆっくり振り返る真希。  
真希のドレス姿を呆然と見つめる永井。

永井「……何？」  
「……ハッ」と我に帰る永井。

永井「……いや」  
永井、真希から目をそらす、微かに  
微笑んでいる。  
浮かない顔の真希、手に持つ陽子の写  
真をぎゅっと握る。

真希「……お父さん」  
「……なんだ」  
「……忘れてるなんて、やっぱり無理だよ……」

真希「……何度だってするよ……そんな簡単  
に割り切れるものじゃないでしょ……？」  
永井「俺は……もう十分苦しんだ……忘れた  
いだからお前も忘れろ」

真希「ヤダ」  
「忘れろ」



梢「そんな物騒な手帳、こんな素敵な日に持

ってこない」

真希「：：？」

手帳を確認する真希。

紺色の表紙。まっすぐ真希を見つめている梢。

真希「：：？」

手帳を手に取り、ページをめくる真希。

怪訝な表情が驚きへと変わっていく。

手帳から陽子の事件の記事と三浦の似

顔絵が落ちる。

○元の結婚式場・チャペル・中

永井の顔を見る真希。

永井も真希に視線を移す。

徐々に笑顔になる永井と真希。

参列者全員の笑った顔。

拍手喝采。幸せそうに笑う永井と真希。

祭壇では丸岡が待っている。

永井から丸岡へ受け渡される真希の手。

真希、丸岡の顔を見つめる。

真希の視界に入る三浦の姿。

真希の鼓動。

最前列の席で拍手をしている三浦。

クローズアップされる三浦の目元。

× × ×

(フラッシュ)

× × ×

三浦の似顔絵。

× × ×

真希からみるみる笑顔が消えていく。

似顔絵よりも色黒でやせ細っているが、

目元は変わらない三浦。

呆然とした表情で祭壇に上がる真希。

○同・控え室・外

丸岡の声「ドアに「控え室」のプレート。

丸岡の声「緊張しすぎだよ」

○同・控え室・中

左手薬指の指輪を撫でながら笑っている丸岡。

丸岡「指輪落とすなんて」

丸岡「椅子に座り、黙っている真希。」

丸岡「え：：ちよつと：：ほんとは大丈夫？」

真希「気分でも悪い？」

丸岡「裕紀が言った：：た：：」

真希「命の恩人って：：」

丸岡「ああ！そう！前列にいた真つ黒いおじさん！式のギリギリで来たから紹介できないかったね」

丸岡「子供のように嬉しそうに話す丸岡。」

真希「どうしたいだから、ぶつちやけハラハラしてた」

真希「：：」

○同・披露宴会場・中

扉が開く。真希と丸岡が立っている。

二人を盛大な拍手が迎える。

丸岡「永井はゆっくり力強い拍手をしている。」

丸岡「繋がる声でも、来てくれてよかった。血は繋がってないけど、俺にとつては父親みた

いな存在だからさ」俺にとつては父親みた真希は三浦から視線を外すことができ

ない。×××

会場の隅でマイクを握る司会。

司会「ケーキ、入刀！」

二人の周りには大勢の招待客たち。

皆、カメラを向けている。その中に三浦の姿もある。カメラに笑顔を向ける真希と丸岡。

だが、真希は三浦から目がそらすことができない。

真希と目が合い、目を逸らす三浦。  
 真希の様子に異変を感じた永井、真希  
 の視線の先に目をやる。驚き、目を大  
 きく見開く。驚く。  
 真希と丸岡のプロフィール動画が流れ  
 る。プロジェクトで映される入院姿の幼い  
 丸岡。  
 司会「東京都に生まれた裕紀さん。生まれな  
 がらに心臓が弱く、動脈硬化も三浦をずっと見  
 永井と梢は動画よりも三浦をずっと見  
 つめていている。」「  
 小学生の丸岡がボールと戯れている動  
 画が流れる。撮っていたのは三浦で、三  
 浦の楽しそうな笑い声が入っている。  
 真希「この動画：：」  
 丸岡「俺がこの前急遽入れたやつ」  
 司会「近くに住んでいた三浦久志さんを父の  
 ように慕った裕紀さん：：」  
 親族席に座る三浦にニツと笑う丸岡。  
 丸岡に優しく微笑み返す三浦。  
 真希「（呟く）父：：のようにな：：」  
 三浦、真希と目が合うと申し訳なさそ  
 うに俯く。  
 病室で横になっっている高校生の丸岡、  
 スーツ姿で入社式に臨む丸岡の写真が  
 映される。  
 司会「三浦さんにも支えられ、二度目の手術  
 も乗り越えた裕紀さん。今ではコムネット  
 通信株式会社の営業として：：」  
 招待客が拍手をしている。  
 司会「ただいまより、お色直しのため、新婦  
 は中座させていただきます」



○同・控え室・外  
ドアに「控え室」のプレート。

○同・控え室・中  
真希と永井がいる。

永井「何を考えてる」

真希「：：：お父さんも気づいた？」

永井「：：：何をだ？」

真希「：：：それとも私の見間違い？」

永井「：：：見間違い：：：だよね？」

真希「お願い：：：そうって言って：：：？」

永井「悪いが：：：」

真希「思ってることはお前と同じだ」

永井「肩の力が抜け、深いためいきをつく真希。

真希「全然出てこなかったのに：：：なんで？」

永井「：：：なんであの人の？」

真希「：：：もつと：：：もつとひどい奴

だと思ってた：：：あの似顔絵：：：冷酷で残

忍な奴だった、思ってた：：：！！：：：そうであっ

て欲しかった：：：なのに：：：！

永井「：：：」

真希「：：：」

真希「：：：」

永井「：：：」

永井「：：：」



花沢「見つかったんだよ……！」

数人の刑事を連れ、走り出す花沢。

○同・捜査本部室・外

佐久間とぶつかる花沢。

睨む佐久間に一瞬ひるむ花沢。しかし、強い眼差しに変わり、構わず走り出す。

佐久間「二度目はねえからな」

花沢「俺は、本物しか許さねえから」

花沢「はい！」  
佐久間「ニヤリと微笑み、歩き出す。」

○同・披露宴会場・中

トーチを持ち、固まっている真希。キヤンドルを持つ三浦を見つめる。丸岡。そんな真希を不思議そうに見つめる丸

隣のテーブルからその様子を不安げな

表情で見つめている永井。

三浦「……真希さん」

真希「……はい」

三浦「今日は来て本当に良かった……。裕紀がこんなに素敵な人と一緒にいるところを見

真希「……」

丸岡「もう、こんな幸せはないよ」

笑う丸岡。

三浦「三浦も笑う。三浦、真希の目を見つめ、これからも裕紀をよろしくお願いしま

す」

頭を下げる三浦を見つめる真希。真希、笑顔を作り、手から力を抜く。トーチの火が三浦のキャンドルへ近づ

く。  
丸岡の手に添えた真希の手が震える。  
火が灯る瞬間、真希は目を瞑る。

○（回想）永井家・玄関・外（夜）

雨に打たれ、陽子の遺体の前で立ち尽くしている永井と真希。

○元の結婚式場・披露宴会場・中

真希、目を開くと、三浦のキャンドルには火が灯っている。  
唇をぎゅつと結ぶ真希。  
その様子を見つめ、拳を強く握る永井。

賑やかな会場内。

高砂に座っている丸岡と真希。

真希の手元には梢から渡された紺色の手帳がある。

司会「そろそろ結びのお時間が近づいてきました」

司会「会場の明かりが落とされる。  
会場がざいまま」

会場扉近くに永井、三浦、由香子（50）が並ぶ。

永井は陽子の写真を手にしている。  
それを見た三浦、微かに会釈をする。

三浦の真横に並ぶ永井の表情は固い。  
緊張した表情の三浦。

陽子の写真握る手に力が入る永井。  
紺色の手帳を手取る真希。

丸岡「真希、それ……？」

真希の手元を凝らして見つめる永井。  
井。思わず大声で、

永井「それ……！」

ざわつく会場内。  
梢を見つめる永井。  
梢、微笑み、目をそらす。

1ペー。1ペー。1ペー、ゆっくりと捲る真希。

永井「：：」 どのページにもボールペンで書き殴られた汚い字。

真希「2007年3月1日 真希と陽子がこの手帳をプレゼントしてくれた」

○（回想）永井家・リビング 中学生の真希と陽子が永井に手帳をプレゼントして

真希「の、嬉しそうな二人と、素直に喜べないも  
ず、なんだから仕事用にしたけれど、言っていたが、  
日記にしてみることが進まず：：。とりあえ

○元の結婚式場・披露宴会場・中

永井「：：」  
真希「2007年12月25日：：真希と初

○（回想）永井家・リビング・中

真希「怪訝な顔で永井を見つめる真希。  
る。中からはチョコレートケーキが出てく

真希「も、キだろって怒られた。今日は絶対ショートケ  
も、キだろって怒られた。今日は絶対ショートケ

真希「の、声から、犯人にダイナマイトでもプレ  
ゼン、ト、い、か、ら、や、っ、て、く、れ、よ、

○元の結婚式場・披露宴会場・中

真希「2011年1月1日」  
真希「ペー、ジ、を、捲、る、真、希、。

○（回想）神社

真希の声「賽銭を投げ、祈る真希と永井。」

い。神様。お願いだから今年で終わらせてく

れ。今年こそ、捕まえない。」

真希の熱心に祈り続ける真希を横目で見る。

真希の声「だから、真希」

○元の結婚式場・披露宴会場・中

真希「読み上げる真希を見つめる永井。」

真希「どうかお前は違う願い事をしていて欲

しい」

○（回想）写真スタジオ・中

真希の声「2014年1月13日」

振袖姿の真希と並んで写真撮影する永

井。

真希の声「陽子、とりあえず、成人させたぞ。

ちよつとは褒める」

真希の声「まあ欲を言えばこの節目までには

つきりさせたかっただけだな。なあ、陽

子。天から見えるんだっただけなら教えてくれ。

どこに犯人がいるのか」

○元の結婚式場・披露宴会場・中

真希「ペー지를捲る真希。」

いつの目撃情報が出た」

陽子の写真を持つ永井の手に力が入る。

俯く三浦。

○（回想）警視庁・捜査本部室・中（朝）

真希の部屋を飛び出す永井。

真希の声「真希の結婚式まで後3日。それま

でに絶対に捕まえてやる」

○（回想）大通り

雑踏の中、三浦の似顔絵を睨みつける

永井。鋭い目つきで周囲を見回し、歩

真希の声「き出す。今度は逃げられると思うなよ」

○（回想）警視庁・捜査本部室・中（夜）

花沢が床で座り込み、梢もそばで俯いでいる。  
真希の手帳に書きなぐっている永井。  
「かっ。ごめん、真希。でも、絶対に俺の手で捕まえるから。もう全部、俺に任せて忘れていいから」

○元の結婚式場・披露宴会場・外

1 ウェルカムボードに記載された「20  
8・4・7」の文字。

○同・披露宴会場・中

手帳を見つめている真希。  
俯いている永井。  
4月6日の書き込みの下にはまだ何にも書かれていない。  
真希「ねえ：：お父さん」  
顔を上げる永井。

○同・門・外

車が急停車し、中から花沢と数人の警官が降りてくる。  
真希の声「今日は：：」

○同・披露宴会場・中

永井を見つめる真希。  
真希「今日は、何て書こっか：：」

見つめ合う永井と真希。  
真希「お父さんと見たかった景色が、すぐそこにあるのに：：どうしよっか：：」

真希「私：：その景色が見たい」  
俯いたままの三浦。

真希「私：：首を横に振る永井。」  
真希「私は逃げてお父さん：：目をそらしたくない。だから、お父さん：：」

真希「首を横に振る永井。」

真希「勢いよく走り出し、スタンバイ中の係員から花束を奪う。花束は薔薇などの赤が基調。永井たちがいる方へ走っていく真希。真希を止めようと走る永井。向かってくる真希を見て目を見開く三浦。」

○（回想）永井家・玄関（夜）

目を見開いている三浦。三浦の持つリュックから、通帳や金目のものが覗いている。ドアを開けたまま、驚きのあまり体が動かない陽子。鉢合わせした二人。外は土砂降りの雨。

○元の結婚式場・披露宴会場・中

真希の走る後ろ姿を見つめるしかできない丸岡。ふとテーブルの上の手帳に目をやると、黄ばんだ新聞記事と三浦の似顔絵が挟まっていることに気づく。驚く丸岡、似顔絵を手に取り、会場にいる三浦に視線を移す。似顔絵と三浦本人を見比べ、困惑する丸岡。寂しそうな瞳で丸岡を見つめる三浦、申し訳なさそうにゆっくりと下を向く。三浦に向かつて花束を大きく振り上げる真希。

○（回想）永井家・玄関（夜）

ポケットから取り出したナイフを陽子に振り上げる三浦。

○元の結婚式場・披露宴会場・中  
真希を抱きとめる永井。



泣きながら、花束を振り回す真希。

○（回想）永井家・玄関（夜）  
陽子の胸をナイフで刺す三浦。

○元の披露宴会場・中  
永井に抱きとめられ、三浦の胸を花束  
で叩こうともがく真希。  
俯き、黙ったままの三浦。  
散る赤い花びら。  
真希、泣いている。

○（回想）永井家・玄関・外  
土砂降りの雨の中、陽子の死体に近づ  
こうとする14歳の真希の腕を永井が  
引き止める。  
もがく真希と、必死にそれを止める永  
井。  
二人ともずぶ濡れ。

○元の結婚式場・披露宴会場・中（夕）  
花沢「：：永井さん！」  
永井に手錠を投げ渡す花沢。  
駆け寄ってきた梢に真希を預け、手錠  
を受け取る永井。  
向かい合い、見つめ合う永井と三浦。  
穏やかな表情の三浦。  
三浦「：：こんな偶然があるんですね」  
永井「：：」  
三浦「聞いた時は驚きました。裕紀の相手が  
まさか：：」  
永井「本当にな：：」  
永井「寂しげに微笑む三浦。  
三浦「：：なん：：なんであんなだよ：：」  
永井「：：なん：：なんであんな事：：」  
丸岡「（叫ぶ）おじさん：：！」  
三浦「永井さん！」  
丸岡「おじさん！どういことだよ：：」



永真永  
井希井

「真希：」  
「：ちゃん、見てろ」  
三浦の目をじっと見  
つめる永井。  
両手を差し出す三浦。  
三浦、優しく微笑み、頷く。  
三浦の手に、手錠をかける永井。  
膝から崩れ、座り込む丸岡。  
膝から崩れ、座り込む真  
梢に抱きかかえられながら座り込む真  
希。涙が頬を伝っているが、どこか  
清々しさのある表情をしている。  
会場内には夕日差し込む。  
窓からは、雨が止んだ後の夕焼け空が  
見える。

○空（夕）

雲の切れ間から差し込む夕日。  
空に飛んでいく色とりどりのバルーン。

○永井家・リビング

誰もいない室内。  
テーブルの上には陽子の写真の入った  
写真立てとウエディングドレス姿の真  
希と永井の笑顔のツインショット写真の  
入った写真立てが並んでいる。  
その前に置かれた緑色の手帳。  
開いた窓から風が入り、手帳の表紙が  
捲れる。2018年4月7日お父  
さんへ『』で始まる真希から永井への手  
紙。

終